

# 平成26年度 佐渡市外国語活動部 活動報告

部長 川井 拓郎

## 1 研究主題

児童の「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するための授業展開はどうあればよいか、実践的な研修の場を設け、日頃の指導力の向上を図る。

## 2 研究の概要

上記主題のために、各参加者が実践を持ち寄り、実践紹介や実技研修を行った。

## 3 研究の実際

実践紹介・実技研修

○期日 平成26年9月17日(水)

○会場 畑野農村環境改善センター

本研修では、一人10分程度の時間を設け、実践紹介や実技研修を行った。教師と児童役に分かれて実際に活動を行ったり、日頃の授業で心掛けていることを話してもらったりした。実技研修では、様々な活動が紹介された。

- ・ what do you want?~夢の部屋を作ろう~
- ・ GO FISH
- ・ Who am I?ゲーム
- ・ Secret game
- ・ ペットボトルキャップを使ったキーワードゲーム



GO FISH のやり方は①UNO (記号カードを除く) を一人5枚もつ②順番を決める③自分が持っているカードの一つを聞く(「Do you have a 2?」)。「Yes」の場合、カードを渡す。もらった人は同じカードのペアを捨てることができる。「No, go fish」の場合、山札から1枚取るように命じる。④手札がなくなった人が勝ち。というものである。実践に授業を行った参加者から「ゲームを通して英語表現に慣れ親しんでいた。表現をしないとゲームに勝てないし、ゲームが進行していかない。英語を使う必要性をもたせることで、分からない子は分かる子に『なんて言うんだっけ?』と聞く姿があった」と報告があった。

## 4 成果

様々な実践を紹介してもらうことで、授業の工夫を知ったり、意欲が高まったりしたなど、大変良い研修となった。参加者からのアンケートからも本研修が有効であったことが伺える。

- 実際に授業を行うことができ、非常に有意義な時間となりました。高学年を担当した経験がない私にとって、授業の実際を体験できるということはとても貴重です。
- それぞれの実践が持ち寄られ、有意義な研修会で会った。特に「反応が遅い子への配慮」「実生活への英語の導入」「通常のゲームを英語化する」はおもしろい視点だと感じた。

## 5 課題

外国語活動の教科化にともない、学級担任が外国語活動を行うことが増えてくる。そのため、日々の授業をどのように展開する必要があるかさらなる検討が必要である。